

寄贈図書紹介

編集委員会

(電話 03-6380-0623)

- 横山篤夫著『英霊』の行方
- 横山篤夫著『銃後の戦後』
- 小田康徳著『軍隊と戦争の記憶』
- 小田康徳編著『旧真田山陸軍墓地、墓標との対話』

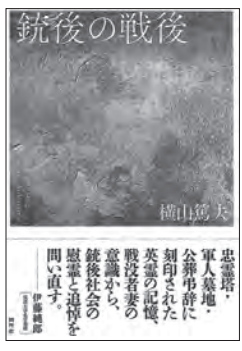
旧真田山陸軍墓地は、1871年(明治4)に日本で最初に設置された軍用墓地です。

陸軍創設期に亡くなられた兵士をはじめ、西南戦争や日清・日露戦争、第1次・第2次世界大戦における軍人・軍関係者の戦死者、病死者など、日本国民の生命・財産を守り、その使命を果たすために殉じた方が埋葬されています。

現在は公益財団法人真田山陸軍墓地維持会が維持・管理を行っています。同会は、旧陸軍墓地の保存について活動を続けています。今回寄贈いただいた書籍で、同会の活動や旧陸軍墓地の現況等について関心をもっていただければと思います。

各書籍は偕行社の編集委員会で保存しております。ご関心のある方は、メール又は電話にご連絡ください。

henshu@rikushukaikosha.or.jp



今里淑郎著『九十六歳ビルマ戦線の証言』

藤原淑子著『インパール作戦・イラワジ・メイクティラー会戦の地へ』

『偕行』3・4月号に、藤原淑子様「ミヤンマー僧になり戦没者慰霊を続けた父」という記事を掲載しましたが、この度、筆者の藤原様から、記事の基となった図書2冊を寄贈していただきました。

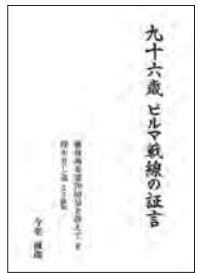
まず、『九十六歳ビルマ戦線の証言』です。本書は藤原様の御尊父、今里淑郎氏が、日本は大東亜戦争で国のために尊い命を捧げた英霊の犠牲の上に成り立っていることを忘れないでほしい、との強い願いから執筆・編集されたものです。

特に、本書には2015年に「神戸新聞」に17回にわたって連載された「ビルマ地獄の敗走」が転載されており、過酷なビルマ戦線でもがき苦しみながら生き延びた体験がリアルに伝わってきます。本書の後半では、今里氏の慰霊への旅、ビルマで僧侶にまでなった経緯などがつづられています。

次に、『インパール作戦・イラワジ・メイクティラー会戦の地へ』です。本書は、3・4月号の藤原淑子

様の記事の巻末でも簡単に紹介しましたが、ほぼ全ページがビルマ戦線の地図や慰霊の旅の写真で埋められており、視覚的にも分かりやす本になっています。

ご関心のある方は、メール又は電話にご連絡ください。
henshu@rikushukaikosha.or.jp
 (電話 03-6380-0623)



右書籍はアマゾンで購入できます。また、『インパール作戦・イラワジ・メイクティラー会戦の地へ』は、千鳥ヶ淵戦没者墓苑でも購入できます。